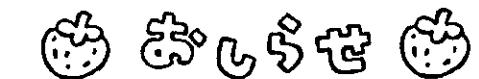




2020年7月 尚徳福祉会 末長こぐま保育園

梅雨と夏の合間の、天気や気候の変化が大きい季節となりました。新型コロナウイルスだけでなく、この時期特有の感染症や熱中症などにも十分気を付けながら、楽しく過ごしていきたいと思っています。6月中も、家庭保育のご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

6月は寒天や片栗粉、ベビーオイルなどを使った感触あそびを楽しみました。ジップロックの上から触ってみると、初めての感触に不思議そうに見つめる子どもたち。絵の具を使った製作も行い、ぬるっとした感触を味わいながら夏ならではの風鈴や花火を作ることができました。夏まつりの中でも、子どもたちの作ったものが見られますので、ぜひ楽しみにしていてください♪



◎最近は巧技台を四つ這いで上り下りをすることを楽しんでいます。手で体重を支え、段差を上がる動作は体幹を鍛えられますよ☆

降園時などお時間のある時は階段でチャレンジしてみてください♪

◎7月からシャワー用フェイスタオルは必要ありません。ご協力ありがとうございました。



大切な五感の刺激

赤ちゃんも「味覚」「聴覚」「嗅覚」「視覚」「触覚」の五感を持って生まれますが、まだどの感覚もぼんやりしたもの。日常にある穏やかな刺激を繰り返し受けることで五感は発達していくのです。今回は五感のうちの味覚と嗅覚についてお話しします。

《味覚》赤ちゃんは、離乳食を通してさまざまな味を感じながら、食べ物のおいしさを知っていきます。「味わう」ためには、食べ物を舌で移動させ、違う味蕾の場所に移して再び味を感じることが必要になります。よく噛み、動かすことでおいしさが持続するため、食べ物を口の中に留めて舌で感じたり、よく噛んだりすることは、味覚を発達させるうえでとても重要になります。いろいろな味を体験し、記憶することによっても味覚が発達し、味の好みが育っていくと考えられています。楽しい雰囲気を作ることも味覚の発達には大切です。一緒に食べる人が「おいしいね」と声をかけながら、おいしそうに食べる姿を見ると、「食べることは楽しそう」「食べてみるとおいしい」と子ども自身も感じ取ります。保育園では、手づかみしやすいように野菜を棒状にして出すことがあります。子どもたちの食べる意欲が育ち、味わうことを探しめるよう自発的な行動を応援しています。

《嗅覚》赤ちゃんのほうが大人よりも敏感な嗅覚。抱っこしてあげた分、信頼する人の匂いを記憶にとどめ、安心感を得ることができます。スキンシップをとったり自然の多い場所に遊びに行ったりと、一緒に匂いの体験をしてみてください。保育園では「においがするよ」と子どもに香りへの気付きの言葉を掛け、園庭の植物や雨のにおい、給食のにおいなどを感じられるようにしています。

生活の中のにおいを言葉にして、いいにおいもイヤなにおいもさまざまな香りの体験を積み重ねることで、子どもの心の幅が広がります。

